



「はてなるマーク」を使って、 主体的・対話的で深い学びの授業づくり



明星大学客員教授・明星小学校校長 細水 保宏

学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学びの実現」が重要なキーワードとして掲げられています。では、どんな授業をすると、「主体的・対話的で深い学び」が実現できるのでしょうか。

その答えは、「子どもの問い合わせ」にあります。

問い合わせをもち、その問い合わせを学級のみんなで協働的に解決し、さらに新たな問い合わせに向かう、このような問い合わせの連続こそが、主体的・対話的に深く学ぶ子どもたちの姿です。

授業づくりも、子どもの問い合わせを軸に考えることが大切です。

最初に考えるのは、本時のねらいと育てたい力、すなわち「なるほど！」です。その「なるほど！」が子どものつぶやきとともに出てくるように、「はてな？」を考えます。

「はてな？」と「なるほど！」の間には、子ども自身が納得解を得るための疑問や追究があります。「どうしてそう考えたの？」という発想の源を問うつぶやきや、「本当に・いつでも・どうして」という本質に迫る話し合いです。深い学びは、こうした「連続する問い合わせ？」を学級のみんなで解決していくことによって生み出されます。

「深い学び」とは教科の本質に迫る学びであり、その「実現」は子どもたちの変容の姿として表れます。子どもたちから引き出したい「なるほど！」は、「こんな見方・考え方をしたら、これまでできなかったことができた・こんなよさが見つかった」という言葉です。

また、「問い合わせをもつ力」を身につけた子どもたちの追究は、「なるほど！」で終わりではありません。「だったら！？」と、新たな問い合わせに向かっていきます。「数や形を変えてもできるのか・いつでもできるのか」といった問い合わせが、次の「はてな？」を生み出します。

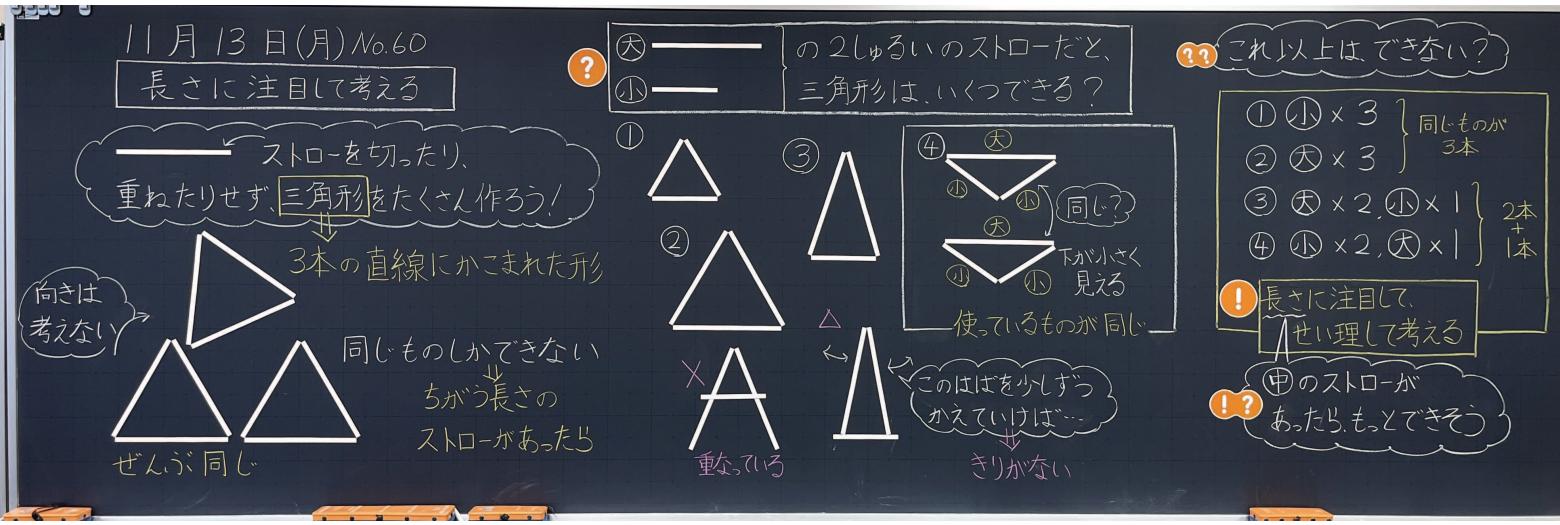
「主体的・対話的で深い学び」がある授業では、子どもの問い合わせが板書に残ります。板書を見て、問い合わせの変容を振り返ることで、子どもたちは学びの深まりを実感します。

「はてなるマーク」を使って、「主体的・対話的で深い学び」の授業をつくっていきましょう。

「主体的・対話的で深い学び」がある授業の板書には、
「はてな？」「なるほど！」「だったら！？」があります。

細水 保宏





▲板書例 3年「三角形」 山本大貴先生（暁星小学校）

「はてなるマーク」の役割



はてな？（学習のめあてにつながる問い合わせ）

「はてな？」は、主体的な学びのきっかけです。学習のめあてにつながる問い合わせがつぶやかれたときは、「はてな？」マークを黒板に貼って、学級みんなで追究していきましょう。



学びを深める問い合わせ??

問題解決を進めるとき、「はてな？」が変容していくことがあります。対話的な学びの中で、「どうしてそう考えたの？」という発想の源への問い合わせや、「本当かな?」「どちらがいいの?」「いつでもできるの?」といった本質に迫る問い合わせを引き出して、「学びを深める問い合わせ??」マークを貼って、学びを深めましょう。



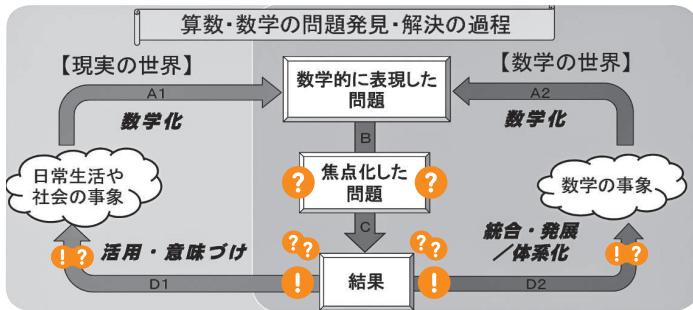
なるほど！（見方・考え方のまとめ）

授業の終末では、知識や技能だけでなく、見方・考え方のまとめも大事になります。「どんな見方をしたらうまくいったかな?」「今日の学習ではどんな考えを使ったかな?」などの振り返りの発問をして、「なるほど！」マークで学習をまとめましょう。



だったら！？（次の学びに向かう新たな問い合わせ）

授業の最後は、「だったら〇〇でもできるのかな！？」という新たな問い合わせを見いだして、明日の授業につなげましょう。



※中央教育審議会答申で示された算数・数学の問題発見・解決の過程の図に、「？、？？、！、！？」のマークを付した。

